

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金企画研究プロジェクトⅠ（教員・学生参加型） 2025年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏 名
	コミュニティ政策学科 2 年	宮原杏里
指導教員	所属・職名	氏 名
	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科・特任教授	津 富 宏
研究課題	不登校経験者が形成するコミュニティの、当事者の進路選択に対する寄与	
研究年度	2025 年度	
プロジェクト 分担者	チャンスジ、加藤俊介	

プロジェクトの内容及び成果の概要

本プロジェクトは、不登校の小学生・中学生・高校生およびその保護者に対し、大学生主導で不登校経験者によるコミュニティを形成することで、進路選択に資する機会を提供することを目的とする。また、活動を通じて当事者および保護者が抱える進路選択に関するニーズを把握し、今後の支援の在り方を検討する。

不登校経験を持つ大学生が主体となり当事者コミュニティを形成することで、信頼性の高い支援と多様な進路モデルの提示を実現し、当事者視点に基づく独自のアプローチで福祉的課題に実践的に取り組む点に本プロジェクトの特徴と意義がある。

活動計画および実施内容**① コミュニティカフェとのコラボ企画**

2025 年 5 月 17 日に和光市のコミュニティカフェアルコイリスにて哲学対話イベントを開催し、不登校について参加者同士が自由に語り合う場を提供した。20 名以上が参加し、多様な視点から不登校について考える機会となった。

② お喋り会

不登校経験者をゲストとして招き、経験談の共有と参加者とのオンライン交流を 2025 年 3 月、7 月、11 月、2026 年 1 月の計 4 回開催した。学生から社会人まで幅広いバックグラウンドのゲストが参加し、参加者からは「様々な人の話が聞けて興味深かった」「保護者として希望が持てた」といった声が寄せられた。

③ フリースクール授業

2025 年 6 月 6 日に将来について考えるワークショップを八王子市のフリースクールにて実施し、「好き（スキ）」を起点に自己理解を深める機会を提供した。

④ 子ども支援イベント（不登校部門）

相模原市のイベントにて当事者団体として企画・運営への助言を行う予定であったが、イベント自体が中止となった。

⑤ 定期ミーティング

定期オンラインミーティングで不登校支援に関する意見交換を行った。新メンバーの増加、活動の拡大に伴い運営体制の見直しが課題となり、今後は月 2 回の定期開催を行う方

針とした。

⑥ フリースクール・支援機関への訪問

2026年2月10日～13日に大阪での研究出張を実施し、不登校特例校心和中学校、第一学院高等学校など多様な支援現場の視察および関係者との交流を行った。加えて、オンラインでも支援者との意見交換を行い、不登校支援の現状について理解を深めた。

今後の展望

本プロジェクトを通じて、不登校経験者によるコミュニティが、当事者の進路選択に対して心理的な安心感や具体的なロールモデルの提示という形で寄与する可能性が示された。また、保護者を含めたニーズの把握や、多様な支援の在り方に関する知見も得られた。一方で、運営体制や活動頻度に関する課題も明らかとなったため、今後は月2回の定期的なミーティングの実施や、SNSを活用した情報発信の強化により、活動の継続性と影響力の向上を図る。さらに、不登校児童だけでなくその保護者に焦点を当てた活動も拡大し、多角的な視点からサポートを展開していきたい。